

図 2 : ICU 担当 Ns. 勤続年数

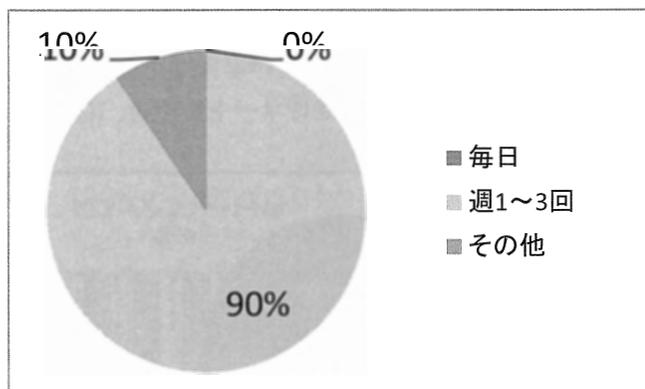


図 3 : 配合変化表の使用頻度

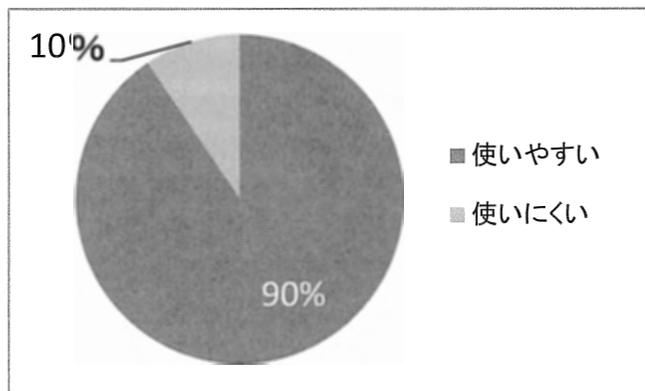


図 4 : 配合変化表の使いやすさ

希釈濃度により結晶析出の可能性が変化する組み合わせもあるため、データでは配合可となっても直後の観察は必須ということである。

今後は、随時見直しを行い要望も考慮しながら、より使いやすいものにしていきたいと考える。

【文献】

- 1) 各社インタビューフォーム
- 2) 東海林徹、松山賢治:注射薬配合変化. Q&A 第2版, 株式会社じほう, 1-144, 2013.

【考察】

今回作成した配合変化表により、必要な薬剤を適正かつ迅速に使用できるようになった。このことにより、安全で質の高い医療の提供に加え、配合変化による薬剤の損失防止による経済的効果も生じ、病院経営にも貢献できたと推察される。

またアンケート結果より、利便性及び実用性において、高い評価を得たことから、今回作成した配合変化表の有用性が示されたと思われる。

今回作成した配合変化表の使用についての注意点は、